

長野県の文化・教育政策の動向について（関連個所の抜粋）

「長野県総合 5 か年計画」

◇ 進捗状況

- ・ 2022 年 12 月 26 日～2023 年 1 月 24 日 パブコメ終了
- ・ 2 月 7 日 結果公表
- ・ 2 月 7 日 しあわせ信州創造プラン 3.0～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために（案）の公表

第 3 章 長野県の特性**1 学びの風土と自主自立の県民性**

本県では、江戸時代に庶民教育を担った寺子屋における学び、明治維新後に住民の寄附により建築された学校における学び、戦前には日本一の数を誇った私立図書館 3 における学びのほか、戦後の公民館活動や各地の夏期大学の学びなど、教育を大切にする風土と県民性が受け継がれています。

博物館・美術館数や公民館数が全国一多く、人口当たりの図書館数も全国有数であるなど、すべての世代が学べる環境が整い、生涯学習が地域に根付いています。

2 ポストコロナ時代に選ばれる「誰もが自分らしく健康に暮らせる長野地域」をつくる**【現状と課題】**

- ・高齢化による地域活動の担い手不足や空き家・空き地の増加など、地域コミュニティの維持・存続が課題です。また、重要な社会基盤である地域公共交通を将来にわたって維持・存続させる必要があります。
- ・地方回帰の流れを踏まえ、移住者やテレワーク利用者の更なる増加に向けて情報発信などの取組を強化していく必要があります。
- ・都市と自然豊かな地域が近く、交通インフラも整備されているなどの特性を生かし、さらに人々を呼び込む魅力的な地域づくりを進める必要があります。
- ・美術館や博物館、図書館などの文教施設が多くある強みを生かし、施設間の連携や観光面での活用などが望まれます。また、長野オリンピック・パラリンピック開催地としての有形・無形のレガシー*や、サッカーやバスケットボールなど本拠地を置く 5 つのプロスポーツチームの存在は長野地域の魅力となっています。

第 4 編「施策の総合的展開」**3 快適でゆとりのある社会生活を創造する****【めざす姿】**

まちの緑化、自然を身近に感じる暮らしや、生活における利用者目線でのデジタル化が進み、どこでも誰もが快適でゆとりのある暮らしを送っています。

また、住民や企業・NPO、行政、地域の関係者等が世代や分野を問わずに協働・共創し、自主的・主体的に地域づくりに取り組むとともに、県と市町村や市町村同士の連携が一層強まり、すべての地域が持続的に発展しています。

さらに、長野県の自然や営みが日本人のみならず、多様な文化を持つ外国人をもひきつけ、県外・海外からの観光のほか、県内への移住・多様なかわりが活発に行われるとともに、コロナ禍でダメージを受けた人と人との絆や交流が回復し、住む人も訪れる人も長野県を楽しんでいます。

あわせて、県民が生活の様々な場面で文化芸術やスポーツに親しみ、心豊かに暮らすとともに、幼少期から多くの芸術作品や自然体験等に触れることで、非認知能力＊や創造性が高められています。

【施策の展開】

◆ デジタル実装による地方の課題解決

○ 電子図書館サービスの充実や図書館や博物館資料等のデジタル化・オープン化の推進等により、全ての県民にとって学びにアクセスしやすい環境を充実

◆ 歴史や文化芸術に興味関心をもつタッチポイントの充実

○ 県立図書館が運用する地域情報資源のポータルサイト「信州ナレッジスクエア＊」を活用し、県立図書館、県立歴史館、美術館等の資料・収蔵品のデジタル化、オープン化を進めることにより、県民が地域の歴史や文化芸術にアクセスしやすい環境を充実

○ 世界最高水準の作品から長野県にゆかりの深い作家の作品まで、県民が気軽に足を運んで美術作品を鑑賞できるよう、県立美術館の展覧会を充実

○ 県立歴史館の機能充実により、県民の歴史に関する学習や交流の促進を図るとともに、新たな長野県史の編さんに着手し、長野県の歩みを記録して未来に継承する営みを推進

◆ 文化芸術の力の様々な領域への拡大

○ アートの手法を活用した学びを教育現場で拡大し、子どもたちのコミュニケーション能力、創造力、他者理解や自己肯定感等の向上を支援

○ 障がい者が文化芸術活動に親しむ機会を増やし、地域における活躍の場を拡大

○ 県立美術館を中核とした文化観光を推進することで、文化の振興を観光振興と地域の活性化にもつなげるとともに、アーティストや担い手が集う場を拡充

○ 観光客向けの情報発信の場を活用し、県内外へ長野県の歴史や文化芸術の魅力を発信

○ 信州アーツカウンシル＊の事業と、行政の移住政策や民間の文化財団の取組等の連携により、県内各地で育まれてきた伝統文化が継承されるよう、担い手の確保を推進

○ 文化財保存の取組に加え、他の行政分野との連携により、文化財を観光資源やコミュニティの核として積極的に活用する取組を推進するとともに、貴重な文化遺産の世界遺産登録等を目指す取組を支援

5－4 学びの共創による地域づくりを推進し、生涯を通じた多様な学びを創造する

学びの共創による地域づくりの推進と生涯を通じた多様な学びの創造

【めざす姿】

学校を核とした学びの共創によって、学校をはじめ多くの主体が連携し、地域の中で多様な学びが創造されている。

【達成目標】

指 標 名	現 状	目 標	備 考
県民一人当たり年間貸出冊数 (公立図書館・電子図書館) (教育委員会事務局調)	5.3 冊 (2021 年度)	6 冊 (2027 年度)	県人口を分母とする公立図書館・市町村と県による協働電子図書館における貸出冊数 [近年の実績に施策効果を勘案して目標値を設定]
社会教育士の数 (教育委員会事務局調)	12 人 (2021 年度)	110 人 (2027 年度)	社会教育士*の称号取得者数の累積 [5年間で約 100 人増加させることを目標に設定]

◆ 生涯を通じて学ぶことができる環境の創出

- 電子図書館サービスの充実や、図書館・博物館資料等のデジタル化・オープン化の推進等により、全ての県民にとって学びにアクセスしやすい環境を充実
- 社会教育施設におけるデジタル基盤の整備や情報活用に関する格差（デジタルデバイド*）解消に向けた取組を促進することにより、誰もが I C T *（情報通信技術）を活用した学びの機会を得られる環境を充実
- 図書館や公民館、オンライン等を活用し、社会を構成する多様な人々が集まり、学び、影響し合い、新たな社会的価値を創ることができる場や機会を創出
- 学びに関わる人々のネットワークを拡大し、多様な学びの創造を目指し、国内外の学びに触れ、交流を深めるイベント「Learn by Creation NAGANO」等を開催するとともに、実践活動を推進
- 学校と社会をつなぐ連携コーディネーターの配置検討や、社会教育士*・公民館主事*等の地域づくりを支援する社会教育人材の育成により、学校と地域の連携や、地域住民による自治の力を向上
- リカレント*講座を開設する県内大学や専門学校等への支援や、多様なリスキリング*の機会の提供により、デジタル分野をはじめとした社会人の学び直しを促進

「第4次長野県教育振興基本計画」

◇ 進捗状況

- ・ 2022 年 12 月 27 日～2023 年 1 月 25 日 パブコメ終了

【目指す姿】

「個人と社会のウェルビーイングの実現」

～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」ととことん追求できる「探究県」長野の学び～

「探究」「探究県」とは

○個人と社会のウェルビーイング を実現するためには、自ら課題や問いを見出し、その解決を目指して、仲間と協働しながら新たな価値を創造したり、自分の好きなこと、楽しいこと、“なぜ、どうして”と思うことに没頭追求する「探究」が重要です。そのため、人が生まれながらにして持っている「探究心」を学校においても社会に出てからも絶やさず伸ばし続けること、学校が探究する楽しさ、ワクワク感が実感できる場所であることが大切です。学びを、これまでのような知識やスキルの習得に偏ったものから、探究し続ける中で、知識やスキルを獲得し、他者と協働しながら自分だけの「知の体系」を

構築していくものに転換していかなければならないと考えます。

学校をはじめとした様々な学びの場が、対話や他者を介して自分の良さに気づき、探究を深める大切な場所であるという共通認識のもと、教員をはじめとした大人も子どもたち同様、「途上にある者」として、また、「共に学ぶ者」「共同探究者」として、生涯にわたって学び 続け、探究し 続ける ことが求められています。

○公民館や図書館の数が多く（※）、「全人教育」「子どもたちへの信頼に基づく教育」「学習者主体の教育」を大切にしてきた長野県には、すべての世代が主体的・協働的に学ぶ、「教育県」としての風土と県民性があります。これらの伝統を継承し、子どもも大人も共に これからの時代を自分らしく生き、学び、探究し、自分たちが望む未来を実現していく、そのような長野県でありたいという願いを込め、「探究県」としました。

※公民館数：全国 1 位、博物館数（類似施設含む）：全国 1 位、図書館数：全国 6 位

『データでみる県勢 2023』日本国勢図会地域統計版(第 32 版) 社会教育関係施設数（2021 年 10 月現在） より

3 生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる

2 生涯を通じて学ぶことができる環境づくり

- 高校の地域拠点化や公民館活動のさらなる充実等により、地域の人々が共に学び合える環境を整備
- 県内にない学部学科を中心とした大学等の立地促進や、既存大学における学部・学科の再編・新規設置等の大学改革支援により、若者が県内で学び続けられる環境づくりを推進
- 社会教育施設におけるデジタル基盤の整備やデジタルデバイド 解消に向けた取組を進め、誰もが I C Tを活用した学びの機会を得られる環境を充実
- 電子図書館サービスの充実や、図書館・博物館資料等のデジタル化・オープン化の推進等により、すべて の県民にとって学びにアクセス しやすい環境を充実
- 学校と地域の連携推進や、地域住民による自治の力の向上のため、学校づくりや地域づくりを支援するコーディネーターの配置・育成を検討
- リカレント講座を開設する県内大学や専門学校等への支援や、多様なリスキリング の機会の提供により、デジタル分野をはじめとした、社会人の学び直しを促進

4 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる

1 文化芸術、スポーツに親しむことができる機会を充実

- 県立歴史館の機能充実により、県民の歴史に関する学習や交流の促進を図るとともに、新たな県史編さんの検討を進め、長野県の歩みを記録し、未来に継承する営みを推進
- 「信州ナレッジスクエア」を活用し、県立図書館、県立歴史館、美術館等の資料・収蔵品のデジタル化、オープン化を進めることにより、県民が地域の歴史や文化芸術 にアクセスしやすい環境を充実

用語集：

・信州ナレッジスクエア

「信州」という切り口から多様な情報源（データベース、アーカイブ、ウェブサイト等）にたどり着くことができる、県立長野図書館が運用し無料で利用できる地域情報資源のポータルサイト。

・電子図書館サービス

公共図書館・公民館図書室のウェブサイトからリンクする電子図書館サイトから、電子書籍をパソコンやスマートフォン、タブレット等の画面上で読むことができるサービス。

「第2次長野県文化芸術振興計画」

◇ 進捗状況

- ・ 2023年2月3日～3月3日 パブコメ受付中

【基本目標】

文化芸術の 価値を高め、支える、ひろげる、つなげる、信州のゆたかな未来」

2 文化芸術があらゆる分野に根つき生かされている

(1) 多様な分野における文化芸術の活用

「文化芸術の持続的な発展のためには、社会のあらゆる場面で文化芸術の力がより一層生かされていく必要があります。多様な分野において文化芸術が活用されるための取組を促進します。

【主な取組】

- 「アートの手法を活用した学び」の教育現場への導入の促進【重点】
- 県立美術館の「スクールプログラム」等の学習事業を通じた学校等との連携推進【重点】
- 県民の学びの場としての県立文化会館、県立美術館、県立歴史館、県立図書館等の連携の推進
- 信州アーツカウンシルの助成プログラムにおける、多様な分野で文化芸術を活用した取組

3 文化芸術活動や伝統文化が地域で支えられ、その価値が引き継がれている

(1) 地域の文化芸術の推進力の強化

① 支援者（機関）等の連携促進

【主な取組】

- 信州アーツカウンシルの連携・協働団体の拡大による、支援リソースの多様化【重点】
- 県立文化会館・県立美術館 と地域の文化施設等の連携の促進【重点】
- 県民の学びの場としての県立文化会館、県立美術館、県立歴史館、県立図書館等の連携の推進

② 専門人材の育成

【主な取組】

- 県立文化会館・県立美術館、信州アーツカウンシル で活動する専門人材の確保・育成
- 県立美術館の交流展等を通じた学芸員の連携促進【重点】
- 美術館・博物館等の専門人材の地域間の交流促進

(2) 地域の伝統文化の保存・活用

① 文化財・伝統芸能等の保護・記録・継承

本県の長い歴史により形づくられた文化財の保護や、地域固有の伝統芸能・民俗芸能を後世に継承していくため、信州アーツカウンシルや市町村、関係団体と協力しながら、県民が地域の文化財等の価値を再認識・再発見し、保護意識の高揚や活用が図られるよう取り組むとともに、継承に向き合う担い手の確保の取組を支援します。

【主な取組】

- 伝統芸能等の担い手確保の取組支援
- 国、市町村と連携した文化財の計画的な指定、登録等の推進
- 伝統芸能等の記録（アーカイブ）化の推進
- 県立歴史館、県立美術館等による資料収集・調査研究

- 地域としての総合的な文化財の保存活用計画などに基づく文化財の総合的な保存と活用の推進
- 文化財所有者による保存、修理、公開、活用等に対する支援
- 文化財パトロールの実施による文化財の現状把握
- 新たな県史編さんの検討による、長野県の歩みの記録や未来に継承する営みの推進
- 文化財の世界遺産、ユネスコ無形文化遺産への登録を目指す市町村や保存団体等の取組を支援
- 開発事業者との調整による埋蔵文化財の保護と、長野県埋蔵文化財センターと連携した地域住民や子どもに対する埋蔵文化財の普及啓発の推進

②地域の歴史文化の発信

県立歴史館等の資料や収蔵品のデジタル化、オープン化を進め、県民が地域の歴史文化や芸術にアクセスしやすい環境を整備するとともに、企画展や各種講座等により貴重な史資料等の情報を県民に分かりやすく発信し、県民が歴史文化を学ぶ機会を充実します。

【主な取組】

- 信州ナレッジスクエアの活用による歴史文化にアクセスしやすい環境づくりの活用による歴史文化にアクセスしやすい環境づくり
- 県立歴史館による企画展やアウトリーチ活動の充実